

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
特殊感覚器・頭頸部	必修	4	3	2	月～金	木許賢一（眼科） 鈴木正志（耳鼻咽喉科） 河野憲司（歯科口腔外科）

【科目名の英文】 Special Sensory Organs and the Head and Neck

【授業の概要・到達目標】

眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔の構造と機能を理解し、眼・視覚、耳鼻・咽喉・口腔系疾患の症候、病態、診断と治療を理解する。

具 体 的 な 到 達 目 標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
《構造と機能》	○					
① 眼球と付属器の構造と機能を説明できる						
② 視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる						
③ 眼球運動のしくみを説明できる						
④ 対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる						
⑤ 外耳・中耳・内耳の構造を図示できる						
⑥ 聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる						
⑦ 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる						
⑧ 喉頭の機能と神経支配を説明できる						
⑨ 平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる						
⑩ 味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる						
《診断と検査の基本》	○					
①まる基本的眼科検査（視力検査、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査）を列挙し、それらの原理と適応を述べ、主要所見を解釈できる						
②聴力検査と平衡機能検査を説明できる						
③味覚検査と嗅覚検査を説明できる						
《症候》	○					
① 眼・視覚系に関する主要症候（視力障害、視野異常、眼球運動障害、眼脂・眼の充血、飛蚊症、眼痛）を列挙し、それらの発生機序、原因疾患と治療を説明できる						
② 気道狭窄、難聴、鼻出血、咽頭痛、開口障害と反回神経麻痺（嗄声）をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる						
③ その他下記の症候についても原因疾患や検査法、治療について説明できる めまい 頭痛・頭重感 悪心・嘔吐 嚥下障害・誤嚥						
<疾患>	○					
(1)眼・視覚系						
① 折異常（近視、遠視、乱視）と調節障害の病態生理を説明できる						
② 感染性角結膜疾患の症候、診断と治療を説明できる						
③ 白内障の病因、症候、診断と治療を説明できる						
④ 緑内障の病因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる						
⑤ 裂孔原性網膜剥離の症候、診断と治療を説明できる						
⑥ 糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化を説明できる						
⑦ ぶどう膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる						
⑧ 視神経炎（症）・うっ血乳頭の病因、症候と診断を説明できる						

⑨ アルカリ、酸による化学損傷の症候と救急処置を説明できる						
⑩ 網膜静脈閉塞症と動脈閉塞症の症候、診断と治療を説明できる						
⑪ 加齢黄斑変性の病態・診断・治療を説明できる						
<b>(2)耳鼻・咽喉・口腔系</b>	○					
① 滲出性中耳炎、急性中耳炎と慢性中耳炎の病因、診断と治療を説明できる						
② 伝音難聴と感音難聴、迷路性と中枢性難聴を病態から鑑別し、治療を説明できる						
③ 末梢性めまいと中枢性めまいを鑑別し、治療を説明できる						
④ 良性発作性頭位眩暈症の症候、診断と治療を説明できる						
⑤ 鼻出血の好発部位と止血法を説明できる						
⑥ 副鼻腔炎（急性、慢性）の病態と治療を説明できる						
⑦ アレルギー性鼻炎の発症機構を説明できる						
⑧ 扁桃の炎症性疾患の病態と治療を説明できる						
⑨ 歯科疾患（う歯・歯周病）とその全身への影響や口腔機能管理を概説できる						
⑩ 気管切開の適応を説明できる						
⑪ 外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物を説明し、除去法を説明できる						
⑫ 唾液腺疾患を列挙できる						
⑬ 口腔領域の先天異常（口唇口蓋裂、他）の治療を説明できる						
⑭ 顎骨の発育様式と顎変形症の治療を説明できる						
<b>(3)腫瘍性疾患</b>	○					
① 網膜芽細胞腫の症候、診断と治療を説明できる						
② 口腔・咽頭癌について、病因、病気分類、検査所見、病理所見、治療法を説明できる						
③ 喉頭癌について、病因、病気分類、検査所見、病理所見、治療法を説明できる						

**【授業の内容】**

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	耳	発生・解剖・生理・奇形	門脇嘉宣	講義
2	耳	聴覚検査・外耳疾患	門脇嘉宣	講義
3	耳	内耳疾患 (感音難聴)	門脇嘉宣	講義
4	耳	中耳疾患①	川野利明	講義
5	耳	中耳疾患②	川野利明	講義
6	耳・顔面	顔面神経麻痺	川野利明	講義
7	耳	前庭機能	一宮一成 (非)	講義
8	耳	めまい疾患①	一宮一成 (非)	講義
9	耳	めまい疾患②	一宮一成 (非)	講義
10	鼻	発生・解剖・生理	梅本真吾	講義
11	鼻	検査・鼻出血	梅本真吾	講義
12	鼻	鼻・副鼻腔腫瘍	平野 隆	講義
13	鼻	アレルギー性鼻炎	立山香織	講義
14	鼻	外鼻・鼻中隔疾患	立山香織	講義
15	鼻	副鼻腔炎・嚢胞	梅本真吾	講義
16	鼻・口腔・咽頭	味覚・嗅覚障害	森山正臣 (非)	講義
17	口腔・咽頭	発生・解剖・生理	須小 毅 (非)	講義
18	耳 (放射線科)	耳疾患画像診断	島田隆一	講義
19	口腔・咽頭	炎症	松永崇志	講義
20	口腔・咽頭	腫瘍	森山宗仁	講義
21	口腔・咽頭	扁桃形態・機能・疾患	吉永和弘	講義
22	口腔・咽頭	いびき・睡眠時無呼吸	渡辺哲生	講義
23	口腔・咽頭	唾液腺疾患	松永崇志	講義
24	口腔・咽頭	嚥下障害	立山香織	講義
25	喉頭	発生・解剖・生理	岩野将平	講義
26	喉頭	腫瘍	平野 隆	講義
27	喉頭	音声障害	平野 隆	講義
28	顔面・頸部	顔面・頸部疾患	藤田佳吾 (非)	講義
29	顔面・頸部	顔面外傷	渡辺哲生	講義
30	気管・食道・頭頸部	異物・気管切開・再建外科	安倍伸幸 (非)	講義
31	頭頸部	頭頸部癌化学療法	伊東和恵 (非)	講義
32	頸部	甲状腺疾患	森山宗仁	講義
33	視機能	視力・屈折・調節	八塚洋之	講義
34	視機能	眼科検査一般	八塚洋之	講義
35	視機能	色覚・屈折検査	中野聡子	講義
36	ぶどう膜	ぶどう膜の解剖・生理	中野聡子	講義
37	ぶどう膜	ぶどう膜炎	中野聡子	講義
38	網膜検査	蛍光眼底造影・眼底画像診断	糸谷真保	講義
39	眼研究	眼疾患の分子生物学	赤嶺孝祐	講義
40	視機能	ロービジョンケア	大塚真美	講義
41	網膜硝子体	加齢黄斑変性・IT	野田佳宏 (非)	講義
42	緑内障	緑内障の病態	横山勝彦	講義
43	緑内障	緑内障の治療	横山勝彦	講義
44	角膜・強膜	角膜・強膜の疾患	大塚貴瑛	講義
45	水晶体	白内障治療	大塚貴瑛	講義
46	角膜	角膜移植	横山勝彦	講義
47	眼球眼窩 (放射線科)	眼球・眼窩疾患画像診断	野田祥平	講義
48	小児眼科	先天性眼疾患、発生	大塚真美	講義

49	小児眼科	小児、斜視、弱視	大塚真美	講義
50	網膜硝子体	未熟児網膜症	山田喜三郎 (非)	講義
51	網膜硝子体	遺伝性網膜疾患	山田喜三郎 (非)	講義
52	網膜硝子体	網膜硝子体手術	岸大地 (非)	講義
53	網膜硝子体	網膜硝子体の検査・生理・病態	中武俊二	講義
54	網膜硝子体	網膜硝子体の疾患・治療・手術	中武俊二	講義
55	網膜硝子体	糖尿病網膜症	佐藤義樹	講義
56	網膜硝子体	眼外傷	佐藤義樹	講義
57	神経眼科	視神経と視路	大塚真美	講義
58	神経眼科	視神経の炎症・変性疾患	大塚真美	講義
59	眼薬理学	眼科の薬物治療	赤嶺孝祐	講義
60	眼瞼・結膜	眼瞼・結膜疾患と治療	糸谷真保	講義
61	画像診断	眼窩解剖・画像診断	糸谷真保	講義
62	涙器	涙道疾患と治療	八塚洋之	講義
63	全身疾患と眼	全身疾患に関連する眼疾患	中武俊二	講義
64	眼腫瘍	眼腫瘍	清崎邦洋 (非)	講義
65	歯科・口腔	口腔潜在的悪性疾患・口腔粘膜疾患	阿部史佳	講義
66	歯科・口腔	口腔腫瘍1 (悪性腫瘍)	河野憲司	講義
67	歯科・口腔	口腔腫瘍2 (歯原性腫瘍)	河野憲司	講義
68	歯科・口腔	口腔顎顔面外傷	河野辰行	講義
69	歯科・口腔	咀嚼と嚥下	小野敬一郎(非)	講義
70	歯科・口腔	歯科インプラント治療	平野公彦 (非)	講義
71	歯科・口腔	口唇口蓋裂	河野憲司	講義
72	歯科・口腔	顎変形症	河野憲司	講義
73	歯科・口腔	顎関節症	河野辰行	講義
74	歯科・口腔	歯性感染症	高橋喜浩 (非)	講義
75	歯科・口腔	口腔疾患の病理学	岡村和彦 (非)	講義
76	歯科・口腔	歯科インプラント治療と顎補綴	山下佳雄 (非)	講義
77	頸部・鼻・咽頭・口腔 (放射線科)	頸部・鼻咽頭・口腔疾患画像診断	野田祥平	講義
78	歯科・口腔	唾液腺疾患・口腔乾燥症	阿部史佳	講義
79	歯科・口腔	顎口腔領域の嚢胞	阿部史佳	講義
80	歯科・口腔	全身疾患と歯科治療	栗林佳奈	講義
81	歯科・口腔	放射線生物学の基礎	岡本哲治 (非)	講義
82	歯科・口腔	口腔顎顔面領域疾患の遺伝子診断	岡本哲治 (非)	講義

**【アクティブラーニングの内容】**

- ・学生に意見を述べてもらう機会を適宜設ける。
- ・学生の理解を確認するため、適宜質問をする。

**【その他の工夫】**

**【時間外学修の内容と時間の目安】**

準備学修	授業項目の予習 ( 1 h )。
事後学修	授業内容の復習 ( 1 h )。

**【教科書】**

教科書を指定しない。

**【参考書】**

切替一郎他 新耳鼻咽喉科学 (第9版) 南山堂 1998年 図書館  
 鈴木淳一他 標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (第2版) 医学書院 1989年 図書館  
 喜多村健他 NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (改訂第2版) 南江堂 2006年 図書館  
 神崎仁他 TEXT 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 南山堂 1997年 図書館  
 森満保 イラスト耳鼻咽喉科 文光堂 2012年 図書館

加我君孝編 新耳鼻咽喉科学 (第11版) 南山堂 2013年 図書館  
 鈴木淳一他 標準耳鼻咽喉科学 (第3版) 医学書院 1997年 図書館  
 中澤満・村上晶・園田康平編集 標準眼科学 (第14版) 医学書院 2018年 図書館  
 吉田晃敏・谷原秀信編集 現代の眼科学 (第13版) 金原出版 2018年 図書館  
 塩田重利・富田喜内監修 最新口腔外科学 医師薬出版 第4版 1999年 図書館  
 石川悟朗監修 口腔病理学Ⅱ 永末書店 改訂版 1982年 図書館  
 高橋庄二郎著 口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床 日本歯科評論社 第1版 1996年 図書館

**【成績評価方法及び評価の割合】**

最終的な成績評価は、眼科、耳鼻咽喉科、歯科それぞれに到達目標に沿った内容の試験(90%)を行い、それぞれの出席状況(10%)と、それぞれの領域を4割、4割、2割の按分で配点し直し、その合計点が概ね6割で合格とする。本試験で眼科、耳鼻咽喉科、歯科の各領域ごとの成績が6割に満たなかった場合は、その領域ごとに再試験を行う。出席の確認は毎回あるいは抜き打ちで数回以上行い、その出席率を持って出席状況とする。

**【注意事項】** 眼科、耳鼻咽喉科、歯科それぞれの領域で出席状況が6割に満たない者は、診断書付きの病欠以外理由のいかんにかかわらず、その領域の試験を受験できない。

**【備考】**

リンク		
	URL	<a href="https://core-curriculum.jp/x/JTt8IErDSUWu0Cw9ocs-wQ">https://core-curriculum.jp/x/JTt8IErDSUWu0Cw9ocs-wQ</a>
教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	医師、歯科医師
教員の実務経験	30年以上	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	歯科衛生士	
実務経験をいかした教育内容	必要に応じて症例を提示し診療の実際を理解させる。 歯牙・口腔の解剖、生理、病理、診断や診察方法、周術期口腔管理について理解させる。	
授業形態	対面授業 or web授業 (含 on demand)	